

# 妙安寺だより 306号

明けまして おめでとうございます

## 暦の話 ② 正月のいわれ

今回は、年頭に当たり正月について話します。正月とは、「たまる・新ためる」という意味から、「改まる月」といわれていることから、一月を「正月」というようになりました。

また、元旦から三が日、あるいは松の内までを「正月」と呼んでいます。

「正月」は、家族・知人が集まり、年の初めを祝い、ますます和やかに睦まじく、楽しい日々を過ごすことから、

「睦月（むつき）」という字が当てられました。

### 〔松の内〕

松飾りを取り除くまでの間で、普通は7日間ですが、江戸時代には、15日まででありましたが、正月気分を早く抜け出して、日常生活に戻るようにと、「松飾明七日朝取可申事」と、おふれを出しました。

### 〔おせち料理〕

「おせち」という言葉は、節句の古語であり、節句の料理でした。

元来、農作業の過程により、五節句があり、現在のようになったのは、特に年の初めを重んじた風習であります。

お正月料理のおせちは、「せめて松の内の間は、主婦を休ませてあげよう」という、一種の保存食品でもありました。昔のおせち料理は、精進料理（ごぼう・芋・人参・こんにゃく・大根など）が中心でしたが、現在のおせち料理は

和洋折衷（黒豆・きんとん・海老・肉・チーズ・ハムなど）に変わってきました。

\*五節句とは、1月1日＝人日の節句（農作業の準備） 3月3日＝上巳の節句（種まき）

5月5日＝端午の節句（田植え） 7月7日＝七夕の節句（草取り） 9月9日＝重陽の節句（取り入れ）

### 〔七草〕

正月の食べ疲れを直すための食事で、漢方薬の役目があります。

鎌倉時代＝セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・スズナ・仏の座・スズシロ

室町時代＝セリ・ナズナ・ゴギョウ・仏の座・タビラコ・耳ナシ・アシナ

現在＝セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・スズナ・仏の座・スズシロ

### 〔七草粥〕

宮中で正月15日に、米・粟・黍・稗・蕪・胡麻・小豆の七種の穀物類から作られた「七種かゆ」を食べていたのが

一般庶民にも広まり、正月7日（7という字を当てはめた）に、「七草がゆ」として食べ始められるようになりました。

### 〔正月の飾りのいわれ〕

①松＝濃緑の葉が強く育つところから、不老長寿・信義・格調の高さ

②竹＝たくましい成長力と節の中がガランドウのところから、心身の潔白・正直

③梅＝酷寒に耐えて美しい花を咲かせるところから、忍耐・努力・剛健さ

④ウラジロ＝漢名で「齒朶（しだ）」。齒は齡、朶は枝。齡が枝のように長く伸び栄えるという縁起。

⑤ユズリハ＝新芽が出て古い葉が落ちるところから、相続

⑥ダイダイ＝代々の意味にとらえて、子孫繁栄

⑦ナンテン＝難を転じて幸福をもたらす。七難即滅 七福即生

## 一月・二月の行事案内

正月1日～3日 午前11時より 正月三が日回向・祈願（ご自由にお参りください）

1月17日（日）午後2時より お鏡開き 大黒天神祭（今年より日にちと時間を変更いたしました）

\*終了後、ぜんざいの供養 大黒様をお祀りの方は、ご持参ください

2月7日（日）星祭り・方除け祈願祭

2月16日（火）午後1時より 開山上人並びに歴代先師法要・永代追善法要

